

八尾の史跡 散歩マップ

(第6版)

久宝寺寺内町コース (約2.4km)

JR久宝寺駅→許麻神社→顕証寺→八尾市まちなみセンター→今口地蔵→鱈角堂址→久宝寺城址→久宝寺緑地

近鉄久宝寺口駅から歩くか、JR久宝寺駅から歩くコースが設定できます。久宝寺地区の古い町並みは寺内町の面影を残す歴史的景観があります。その寺内町の中心が久宝寺御坊浄土真宗本願寺派の顕証寺です。そのすぐ近くに八尾市まちなみセンターがあります。ここでは、久宝寺寺内町の展示がとく、また案内パンフレットなどもありますので、是非ここに寄ってから寺内町を散策してください。

市中心部コース (約3.3km)

近鉄八尾駅→八尾神社→常光寺→八尾寺内町北口→天満宮→大信寺→慈願寺→八尾寺内町東口→森本七郎兵衛屋敷跡→環山楼→桑山上人墓→伴林光平碑→長柄神社→光明寺高地蔵→三堂学舎址→近鉄八尾駅

近鉄八尾駅西口から西へ行くと八尾神社があり、商店街に出ると常光寺があります。このあたりから長瀬川本町橋のあたりは大坂夏の陣で、藤堂軍と長宗我部軍が戦ったところで、常光寺には戦いに勝った藤堂軍戦没者の墓などがあります。さらにファミリーロードを行くと、八尾天満宮、大信寺があります。そこから南に進み、表町通りを横切って、慈願寺にです。ここは、八尾寺内町のほぼ西の端になります。ここから市役所へ行くと、寺内町を一周することになります。環山楼から南に進むと、八尾共同墓地内には桑山上人の墓があります。そこから、伴林光平碑、長柄神社を経て、八尾街道を北にとると、近鉄八尾駅に戻ります。

蘇我・物部史跡地コース (約3.8km)

JR八尾駅→安中新田会跡跡→物部守屋墓→大聖勝軍寺→筒矢塚(→弓代塚)→樟本神社→樟本神社(日羅寺)→稲城址→地下鉄八尾南駅

西暦587年、蘇我馬子と物部守屋は飛鳥の朝廷の覇権をめぐって争いを起こし、八尾市太子堂から跡部地区、木の本地区にかけての一带で大合戦が行われました。JR八尾駅から太子堂の交差点方面に歩くと、物部守屋墓といわれる墓があります。そのすぐ西側が大聖勝軍寺で、太子堂として親しまれています。この南側には守屋を討ったという筒矢塚などの伝承地があります。南木の本地区には敏達天皇の時に百済から帰ってきた百済の高官日羅ゆかりの寺(日羅寺)があります。日羅は聖徳太子信仰とも深く関わる人物です。

やまの街道



大阪市 平野区

藤井寺市

東大阪市

山麓北コース (約6.2km)

服部川駅→玉祖神社→(神立茶屋辻→水呑地蔵)→神立共同墓地→愛宕塚→向山古墳→心合寺山古墳→鏡塚古墳→松の馬場→大竹バス停

心合寺山古墳が復元整備されて、平成十七年(2005年)四月に、しおんじやま古墳学習館がオープンしました。学習館では、発掘の状況や遺物を映像や実物で見ることが出来ます。ここを中心にそれぞれの史跡を散策してみてください。神立地区の菊の花などの栽培地や服部川周辺の植木畑のある風景を楽しみながらの散策となります。出発は近鉄信貴線の服部川駅か、または近鉄山本駅から狐塚山行きのバスの大竹バス停です。大竹バス停で降りると、心合寺山古墳は近くなります。健脚の方は水呑地蔵さんへ登るのもいいでしょう。普通のコースは、愛宕塚古墳と心合寺山古墳を入れて、歩くのがお勧めです。



心合寺山古墳墳頂から望んだ水呑地蔵尊のお堂

山麓中コース (約4.2km)

信貴山駅→法蔵寺→神光寺→来迎寺→佐麻多度神社→俊徳丸鏡塚→服部川駅

信貴山駅で降りると、法蔵寺へ行くことができます。ここは江戸時代の禅宗の寺院です。境内とその付近には古墳が多く、なかでも当寺を開山した好山和尚の墓があるところには開山塚古墳という後期古墳があり、明治の博物学者エドワード・S・モースが訪れ、石室のスケッチを残したところとして有名です。八尾市の指定文化財となっています。信貴山駅で降り、服部川集落から急な坂道を登ると、神光寺にです。この付近は古墳が多く、高安千塚古墳群の中心地となっています。また、服部川駅から服部川総社の横を上ると、謡曲弱法師で有名な俊徳丸の史跡、俊徳丸鏡塚があります。

生駒郡 平群町

生駒郡 三郷町

山麓南コース (約6.8km)

信貴山駅→権現社→教興寺→大通寺→里塚→善光寺→垣内共同墓地→岩戸神社→梅岩寺→安養寺→恩智神社→感応院→恩智城址→恩智左近墓→ジュメイ地蔵→神宮寺小太郎塚→天王の森→恩智駅

信貴山駅から南に歩くと、教興寺・黒谷地区にです。ここには飛鳥時代秦河勝が建立したと伝えられている教興寺があります。鎌倉時代に西大寺の敷上人が再興した寺としても有名です。この近くに垣内の一里塚やお初徳兵衛ゆかりの大通寺があります。近松門左衛門の曾根崎心中から派生してできた近松半二の浄瑠璃ゆかりの地です。ここから善光寺、梅岩寺、岩戸神社に登ることになります。恩智駅から降りて歩くと、天王の森から恩智神社に登ることになります。神社までに恩智城址、恩智左近の墓などをみることが出来ます。

河内七墓(わちななほか)

今の長瀬有馬墓、岩田墓、額田墓(以上、東大阪市)、神立共同墓地、垣内共同墓地、来迎寺墓(神宮寺墓ともいう)、植木共同墓地(以上、八尾市)の七ヶ所の共同墓地を河内七墓といひ、奈良時代に行基によって開基された。盆の八月十四日に七墓参りをすると極楽往生できるとの言い伝えがあり、盆の月に七墓参りをして先祖供養をする風習があります。行基が民衆に仏教の布教を始めた当時、中河内一帯は天候不順による飢饉(きが)と疫病(えきびょう)が流行し、多数の死者がでました。死体は供養されずに放置されていたので、それを憂いた行基はみんな呼びかけ、捨てられ、放置されていた死体を集めて茶毘(たび)に付し、供養したのが河内七墓の起源とされています。

柏原市

由義寺跡(ゆげであと)

平安時代初期に編纂(へんさん)された歴史書『続日本紀(しよくにほんぎ)』に、孝謙(こうけん)天皇(の称徳(しょうとく)天皇)に關わって「由義宮(ゆげのみや)」や「由義寺(ゆげであと)」のことが書かれています。天平神護(てんびょうじんご)元年(765年)十月に称徳天皇は、僧・道鏡の故郷である河内の弓削寺に行幸されました。その後、弓削行宮(ゆげのあんぐう)を拡張し、由義宮の建設が進められ、神護景雲(じんごけいうん)三年(769年)十月に、由義宮を西京と定められました。神護景雲四年(770年)二月、称徳天皇は再び由義宮に行幸され、四月五日に、由義寺の塔を造営した関係者に位階を与えました。翌日、平城宮(ならのみや)に戻りましたが、八月に崩御されたため、西京の造営は中止になったようです。「由義宮」や「由義寺」は、その場所がわからなかったため、長らく幻と考えられていましたが、平成二十八年(2016年)九月に行われた土地区画整理事業に伴う発掘調査で、奈良時代の瓦が大量に見つかり、翌年二月に巨大な塔の基壇(きだん)が発見されました。基壇の規模から塔は、七重塔だった可能性があります。この発掘調査の結果を踏まえ、基壇が発見された場所を中心に「由義寺跡」として、平成三十年(2018年)二月に国指定史跡になりました。



由義寺の七重塔イメージ図(早川和子氏画)

凡例	
○ 市役所	× 小・中学校
● 警察	● 高等学校
▽ 消防署	▽ 大学
◇ 保健所	◇ 電波塔
■ 郵便局	■ 記念碑
● 病院	● 神社
○ 官公署	○ 寺院
	● 史跡名勝天然記念物
	● その他

約1km